

# QRコード生成

レコードが作成・更新された時に、指定されたフィールドの値から QR コードを生成します。

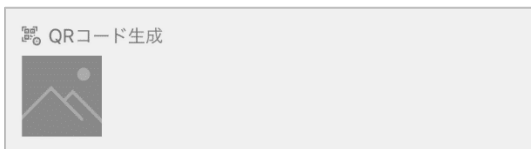
※ このフィールドは内部タスクを使用します。内部タスクには、呼び出し回数に制限があります。詳細は、開発者ドキュメント「[内部タスク](#)」を参照してください。

## 基本情報

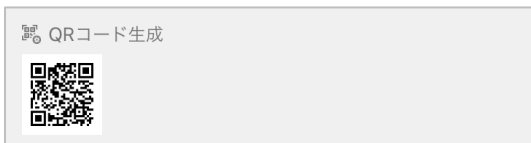
カテゴリ	自動化
利用できるプラン	Standard, Premium, Enterprise

## アプリ

### 初期画面



### 表示画面



# Platio Studio

## 基本プロパティ

(\*)は必須、指定しないとデータポケットを保存できません。

生成元フィールド (*)	<p>QR コードを生成するフィールドを指定します。 レコード作成・更新時に、生成元フィールドに指定したフィールドの値から QR コードを生成します。</p> <p>指定できるフィールドは以下です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• テキスト</li><li>• 電話番号</li><li>• メールアドレス</li><li>• URL</li><li>• ID 生成</li><li>• テキスト生成</li><li>• 最新テキスト</li></ul> <p>※ テキスト選択、レコード選択、数値は指定できません。テキスト生成フィールドを利用して文字列の値を生成して、指定することができます。</p>
--------------	---

## 高度なプロパティ

「高度なプロパティを表示」をクリックしたときに表示されます。表示した後、隠すには「高度なプロパティを隠す」をクリックします。

(※)のプロパティについて詳しくはミニガイド「フィールドプロパティ概要」を参照してください。

【ミニガイド「フィールドプロパティ概要」URL】

[https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio\\_mguide\\_vol01.pdf](https://plat.io/ja/wp-content/themes/platio/pdf/support/guide/platio_mguide_vol01.pdf)

印刷をサポート	<p>作成した QR コードをデータポケットの表示・編集シーンから印刷できるようにするかどうか指定します。</p> <p>※ オンにすると表示・編集シーンのフィールドにプリンターアイコンが表示されます。</p> <p>オン：印刷可能にする オフ：印刷可能にしない（初期値）</p> <p>オンにしたときは以下が表示されます。</p> <p>プリンター： 対応しているプリンターを選択します。</p> <p>用紙の種類を指定します。</p> <p>※ プリンターの指定によって選択肢が変わります。</p> <p>部数： 部数の数値か、数値を返す式を指定します。式については、Platio 式を参照してください。</p>
説明 (※)	データポケットの入力・編集シーンで、フィールド名の下に表示する説明を記述します。
色 (※)	データポケットのレコード入力・表示・編集画面と一覧画面で、フィールドの表示文字の色を指定します。
背景色 (※)	データポケットのレコード入力・表示・編集画面と一覧画面で、フィールドの背景色を指定します。
条件付き表示 (※)	データポケットの入力・編集シーンで、フィールドを表示する条件を指定します。

## プロパティ例

### 印刷をサポート

印刷をサポートがオンの時、フィールドにプリンターアイコンが表示され、タップして印刷できます。



### データビューアー

テキスト生成フィールドを利用したテキスト生成は、アプリでのレコード作成・更新時に動的に行われます。そのため、「生成元フィールド」プロパティにテキスト生成フィールドを指定した場合、データビューアーでのインポートするときにテキスト生成フィールドが空でインポートすると、値が生成されないため QR コードは生成されません。

生成元フィールドにテキスト生成フィールドを指定するときは、アプリからレコードを保存してください。